



さか い かず たか
坂 井 一 貴

職 名 教授
担当科目 データサイエンス基礎、インターネット概論、
コンピュータリテラシー、プログラミング基礎
ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
研 究 室 内線 402
E-mail k-sakai@nagaokauniv.ac.jp

研究テーマ IR (Institutional Research)、数学、情報学 (情報数理、数理モデル、非線形現象、力学系)

研究業績 論文

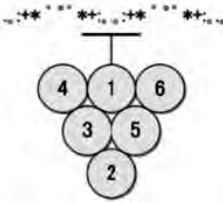
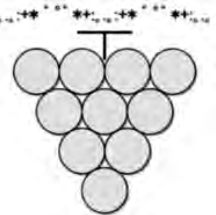
- 令和5年3月 個人型確定拠出年金 (iDeCo) における運用商品購入日が事前に明らかなことによる株価への影響有無 (単著)、長岡大学研究論叢 第21号
- 令和4年3月 私立大学の定員厳格化に伴う高校生等の高等教育機関進学状況の変化について (単著)、長岡大学研究論叢 第20号
- 平成31年3月 学修成果と「学修行動・生活調査」回答結果との関係性に関する一考察 (単著)、富山短期大学紀要 第55巻
- 平成30年3月 学修成果と授業アンケート結果との関係性に関する一考察 (単著)、富山短期大学紀要 第54巻
- 平成28年3月 Webシラバスによる授業アンケート結果からの一考察 ―授業外学習時間を中心に― (単著)、富山短期大学紀要 第51巻
- 平成26年3月 教育の質的向上と教育改善を目的としたWebシラバス・システムの構築 (単著)、富山短期大学紀要 第49巻
- 平成15年1月 Set-Valued Theoretic Generalization of Stackelberg Equilibrium Points (共著)、Proceedings of the Second International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis.
- 平成14年12月 Baire's Category Theoretic Classification of Compact Expansive Dynamical Systems (単著)、Open System & Information Dynamics, Vol.9, No.4.
- 平成14年12月 Decomposability of Nonsaturated Fractal Geometric Dynamical Systems (共著)、京都大学数理解析研究所 講究録 1298
- 平成14年1月 非線形無限回連続微分可能多変数関数の重ね合わせ表現問題 (共著)、京都大学数理解析研究所 講究録 1246
- 平成30年2月 「学修成果の可視化」で目指すもの～取組概要と成果～ (共同)、平成29年度大学教育再生加速プログラム (AP) 全テーマ合同報告会
- 平成29年3月 Webシラバス・システムによる「学修成果」の可視化 (単独)、松本大学松商短期大学部 公開FD・SD講演会
- 平成15年8月 A Calculation Method of Topological Entropy of Dynamical Systems on Compact and Totally Disconnected Domain (共同)、The Third International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis
- 平成14年9月 Baire's Category Theoretic Classification of Compact Expansive Dynamical Systems (単独)、京都大学数理解析研究所「非線形解析学と凸解析学の研究」研究集会
- 平成13年8月 Set-Valued Theoretic Characterization of Stackelberg Equilibrium Points (共同)、The Second International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis

略 歴

- 令和5年10月 新潟大学 工学部 非常勤講師 (現在に至る)
- 令和5年4月 長岡大学 経済経営学部 教授
- 令和4年4月 新潟大学 教育・学生支援機構 非常勤講師 (現在に至る)
- 平成31年4月 長岡大学 経済経営学部 准教授
- 平成19年4月 富山短期大学 経営情報学科 准教授
- 平成16年4月 富山短期大学 経営情報学科 講師
- 平成16年3月 新潟大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程 情報理工学専攻修了 [博士 (理学)]
- 平成13年3月 新潟大学大学院 自然科学研究科 博士前期課程 数理科学専攻修了 [修士 (理学)]
- 平成11年3月 新潟大学 理学部 数学科 卒業 [学士 (理学)]

社会的活動

- 令和5年5月 長岡市デジタルイノベーションハブ 委員 (現在に至る)
- 令和5年5月 長岡市デジタル推進ラボ 幹事 (現在に至る)
- 令和5年1月 社会人向けNaDeCデジタル人材育成プログラム 講師 (現在に至る)
- 令和3年6月 長岡市 地域づくり団体活動補助金審査会 審査員
- 令和3年2月 新潟県データサイエンス人材育成協議会 委員 (現在に至る)
- 令和2年4月 NaDeC 授業連携ワーキンググループメンバー (現在に至る)
- 平成29年4月 松本大学松商短期大学部 外部評価委員会 委員 (令和2年3月まで)

テーマNo.1	「受験数学ではない数学 ～数の不思議やおもしろさ～」
内 容	数学は、計算を学ぶというよりも、論理的な思考、順序立てて物事を考える能力を養うことができる学問です。 それでは、無限に循環する小数「0.999…」と整数「1」はどちらが大きいのでしょうか？「数学B」で学修する「等比数列の和」の公式を用いると美しく証明できますが、小学生の学修範囲内でも説明したり、証明することが可能です。 そのようなことを具体的な事例を提示し紹介し、一緒に考えていきたいと思います。 「数学は、単に公式を覚えて計算できれば良い」ということではなく、なぜそのような公式が成り立つのかなどを理解することで、きっともっと数学が楽しく、楽に学べることでしょう。
テーマNo.2	「プログラミング基礎講座」
内 容	プログラムとは、コンピュータを利用して正確かつ高速に何らかの問題を解決するための処理方法を順序立てて記述したものです。すなわち、「何を」「どのような順番で」「何に対して行うのか」を記述したものです。 プログラムを考えるプログラミングは、2020年度から小学校でも授業として必修化され、多くのものが自動化されていく21世紀において欠かすことのできない知識・技能になっています。 ただし、全員がシステム・エンジニアのような能力を身に付けるということではなく、あらゆる仕事などに応用可能な上記で示した「何を」「どのような順番で」「何に対して行うのか」というプログラミング的な思考力（論理的な思考力）が必要となっているということです。 この講座では、以下のような具体的なパズルを通して、プログラミングの基礎を学びたいと思います。  左の図は、1 から 6 までの自然数（非負整数値）が 1 つずつブドウの粒の中に入っています。さらに、上段の接する 2 つの粒の差が、その粒の中の値になっています。 右の図で、1 から 10 までの自然数を 1 つずつブドウの粒の中に入れ、上記同様、上段の接する 2 つの粒の差が、その粒の値になる並び方はあるでしょうか。 また、ある場合は全部で何通りあるでしょうか。 
テーマNo.3	「FinTech, AI, IoT, RPA, 新たな情報活用と社会変化」
内 容	情報化の急速な進展、コンピュータや通信ネットワークの性能向上に伴い、次々に新しい仕組みやビジネスが生まれてきています。 2007年1月にApple社がはじめてiPhoneを発表して、わずか10年ほどで世の中は大きく変わりました。高々10年ほどで劇的に世の中が変わる現代において、常に新しい情報を理解し、次の変化を予測し準備することは、人生を楽しく生きていく上で非常に重要です。 この講座では、現在の世の中で起こっている情報技術を活用した新たな動きについて紹介し、皆さんが今後新たな知識や情報を得るためのきっかけになれば良いと思います。